

2 2022年11月20日のふくしま駅伝をラストランに、**巖田章宏**さんが陸上を引退しました。走ることの楽しさを学んだ小学時代、走り続けることの厳しさを知った中学・高校時代を経て、大学時代は憧れの箱根駅伝の「山登り」で有名な5区に3年連続で挑み、実業団では引退する直近の大会でも自己ベストを出すなど、最後まで自分の記録に挑戦し続けました。引退し、19年間という競技人生を終えた今の心境を伺いました。



SEKINO

株式会社セキノ興産

Akihiro Nezumida

巖田章宏



- 1_ 田村富士ロードレース「地元の後輩たちと」
- 2_ 株式会社セキノ興産「実業団での大会の様子」
- 3_ ふくしま駅伝「家族や親戚の応援団に笑みがこぼれる」
- 4_ 田村富士ロードレース「小学生ランナーと並走」
- 5_ 箱根駅伝「大学2年時から3年連続出場、5区の山登り」

やらないで後悔するより、やって後悔した方がいい。

Profile

- 生まれ / 1997年4月17日、常葉町
- 競技歴 / 関本小（ときわランナーズ所属）→ 常葉中（特設陸上部、ふくしま駅伝田村市チーム）→ 田村高校 → 国士舘大学 → (株)セキノ興産 → ふくしま駅伝（2022年11月20日）をラストランに陸上競技を引退
- 好きな食べ物 / ラーメン
- 座右の銘 / 何事も挑戦



「挑戦」し続けた陸上人生

大学時代からのケガもあり社業に専念すると決め、昨年のふくしま駅伝を最後に陸上を引退しました。走り終えてみると、もっとこうしておけば良かったとか悔やむことがあるかなと思ったのですが、スッカリと終わって、良い陸上人生だったと思っています。ふくしま駅伝をラストランにすることは、引退を考える前から決めていたことでした。ずっと応援してくれていた両親や親戚、先生やふくしま駅伝田村市代表のスタッフの方々も福島ですし、地元で練習していた時は「頑張ってね!」と知らない人にも声援をもらっていて、今の自分がいるのは本当に地元の人たちのおかげだとしみじみ思いながら競技を続けていたので、育ててもらった地で自分の最後の走りを見てもらいたいと思い走らせてもらいました。

陸上は、兄姉の影響で小学1年生の時にときわランナーズで走り始め、実業団まで19年間続けてきました。その中で特にターニングポイントになった出来事は、大学時代に同じ常葉町出身で1学年上の戸澤奨さんから「巖田とタスキをつなぎたい」と言っ

ていただいたことです。大学1年の記録が伸び悩んでいた時期でしたが、この言葉があって箱根駅伝を本気で目指すと気持ちを切り替えて練習に励むことができました。実際に、2019年の第95回大会では戸澤さんとタスキをつなぐことができ、小学生の時から一緒に走ってきたので、とても感慨深い気持ちになりました。最終的に、実業団でも走ることができたのは箱根駅伝の成績があったからだと思うので、とても感謝しています。

また、実業団へ進むか迷っていた時には、幼馴染の渡辺峻広さんに「やってみたらいいじゃん」と背中を押してもらい、もう一つ上のステージに進む決意ができました。今の自分がいるのは目標となる先輩や幼馴染、これまでサポートしてくれた方々がいてくれたからだと実感しています。

これからは社会人として新たな人生をスタートさせます。これまで陸上を続けてきたことで多少の辛いことでは負けなくなったと思うので、これまでの経験を糧に社会人として「挑戦」し続けていきたいと思っています。

SEKINO

Challenge